

## 美術の技法・材料に関する広領域的研究 (①美03-08-3/5)

### 目 的

本研究は文化財にかかわる諸分野との提携による作品の多角的研究を目指す。具体的には作品を構成する材料や用いられた技法、制作の過程・作品の成り立ち、生成されてから今日にまでそれがどのように受容され、あるいは伝来してきたかなどを、関係の文献史料や、あるいは作品そのものに対する科学的分析（X線撮影など）を援用しながら解明し、文化財についてより深く考究していくことを目的としている。

### 成 果

(1) 作品・関係資料の調査・研究：本年度は以下の作品・関係資料の調査を行った。

ア) 大阪市立美術館蔵脱活乾漆像の調査

イ) 兵庫・個人蔵「虫の歌合絵巻」(2種)の調査

ウ) 山口県立美術館蔵雲谷派縮図の調査

エ) 黒田清輝滞欧期関係資料の現地調査(東アジアの美術に関する資料学的研究と共同)

オ) 大津市歴史博物館における仏教彫刻関連情報の収集

カ) 福岡市美術館における近世障壁画関係情報の収集

(2) 彩色関係データ(語彙・史料編)の集積とホームページによる公開

美術工芸品の彩色を考えるうえで史料上にあらわれた関係語彙とその使用例を総覧することを目的に、彩色関係資料データベース(語彙・史料編)のデータ集積を行った。集積に際しては公刊史料(活字本)をもとに、その中から彩色関係の語彙の抽出につとめ、分類し、奈良時代史料にあらわれた彩色語彙データベースをホームページにおいて公開するとともに、逐次、更新に努めた。

(3) 寄贈資料の整理

前年度に寄贈を受けた資料のうち、技法材料研究ととくに関わりの深い柳澤孝旧蔵資料の整理に着手し、公開に向けての暫定的な整理を終えた。

### 論文等掲載数 1件

・津田徹英「滋賀・錦織寺不動明王立像の周辺—不動明王彫像の額上髪にあらわれた花飾りへのまなざし—」『仏教芸術』299 pp.53-87 08.7

### 発表件数 2件

・津田徹英「天平の脱活乾漆技法をめぐる二、三の問題」総合研究会 東京文化財研究所地階セミナー室 08.9.2

・皿井舞「仏像の修理・修復—サンフランシスコ・アジア美術館の脱活乾漆像をめぐる—」第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「“オリジナル”の行方—文化財アーカイブ構築のために」東京国立博物館平成館大講堂 08.12.7

### 研究組織

○綿田稔、田中淳、山梨絵美子、勝木言一郎、津田徹英、塩谷純、皿井舞、江村知子、土屋貴裕(以上、企画情報部)